

# 今、持っている力を十分に発揮し、 生き生きと楽しそうに行動する子

上 田 起 久 子

## はじめに

K子は、文字も読めるし、歌もうたえるし、司会だってできていたんだよという話を一番に聞いた。しかし、実際の様子を見ると、1分と椅子に座っておれず、先生の話も聞けない、室内をうろうろ歩き回ってはいろいろな物を持ち出す、友だちや先生の物でも勝手に使うなど少しもじっとしておれない子だった。集中力、持続力に欠け、机上学習の成立しにくいK子、こだわりが強く素直に行動できないK子に対して、なんとか皆の中に入れていけるようにさせたいとの思いがあったが、てんかんの中でも難治性のレンノックス症候群と呼ばれるもので、障害にかなり影響される面があり、医療なくして教育はできない典型的な事例である。そこで、キュア&ケアの考えを基に、発作とたたかいながら、一日のうち一時でも楽しい時が過ごせることを目指して取り組んだ。

## 1. 対象児のプロフィール

### (1) 生育歴

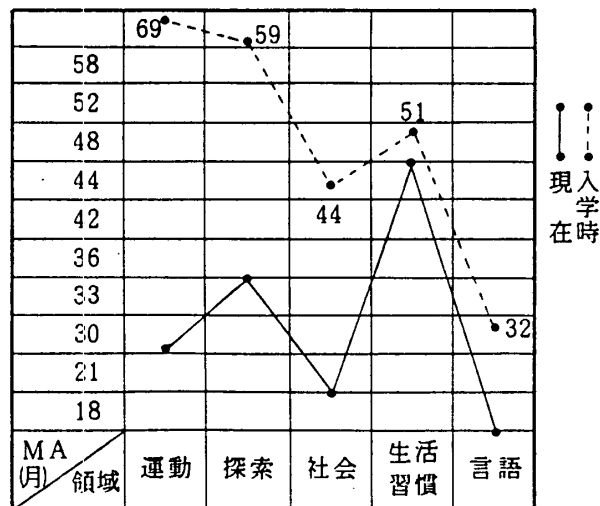
生徒名	K. M.(女)	S. 50. 10. 19 生(14歳)	8ヶ月の時、おすわり・ねがえりができないということで、鳥大医学部で受診。點頭てんかんと判明。2ヶ月入院。2才頃、けいれんあり。K保育所(3年)を経て、本校小学部入学(S.57)。現在、中学部2年。
主障害	難治性てんかん(レンノックス症候群) 精神運動発達遅滞、単純性肥満		

下図の津守式発達検査でも分かるように年々退行してきている。例えば、小学校低学年の頃は、おしゃべりで、ぬり絵や名前のなぞり書きなどでいねいにかいていた。中学年においてもままとや玉通しの他、紙芝居、歌、踊りが大好きで、楽しみながら取り組んでいた。基本的な生活習慣もかなり自主的にできるようになっていたが、高学年になると、極端に発語の数が減少し、こだわりも強く、特に、排泄の失敗・食事マナーの悪さが目立ってきた。小6の時、點頭てんかんからレンノックス症候群と変更される。

### (2) 実態及び行動特性

- 4月頃は、発作が一日一回くらいあったが、学校ではほとんど起こらない。現在、家庭でも覚醒時は、あまり起こらなくなっている。
- 砂・水遊びを好み、関連して食器や野菜を洗うこと、クッキー生地をこねる・丸めるなど調理学習の時、嬉しそうである。
- 積み木や紙切り、玉通しなど手先を使う活動

図1 津守式発達検査(H.元.5実施)



は得意であり、集中して取り組む。

- 合同学習の話し合いや朝の会の日記発表など聞く活動は、苦手であり、注意散漫となりやすい。
- 気分や感情に左右されやすく、こだわりがあり、集団で移動する時や課題を与えられると強い抵抗を示すことがある。
- 好きな人に抱きついたり、ちょっかいを出したりして甘える反面、不調の時やしたくない時には、イライラして人をたたく・つめるなど自製のきかないことがある。



〔洗い物をするK子〕

## 2. 指導の方針と方法

- (1) 医療との連携を密にして、できるだけ発作の少ない生活を保障する。

医師の治療方針に従って指導通りに行うことが、薬の副作用（眠気、イライラ、ぼんやり）を少しでもくいとめることができ、本児にかかる負荷も少なくすむものと思われる。

- (2) 運動量を確保することによって、肥満防止に努める。

肥満傾向にある本児は、動くこと自体、きつい。少しでも負担を軽くし、あらゆる活動において柔軟に動ける体をつくることは、障害の特性からも非常に大切なことである。

- (3) 本児の好きな活動を取り入れ、楽しく、活気ある生活となるようにする。

刺激の少ない、ぼんやりとした生活は、発作を誘発しやすい。発作のない時の生活の質を向上させるためにも本児が、能動的に物事に働きかけることのできる場をたくさん提供していかなければならない。

以上、3つの柱を基に、持てる力を十二分に発揮し、素直で生き生きと明るい学校生活を送ることを目指して取り組んだ。

## 3. 指導の実際

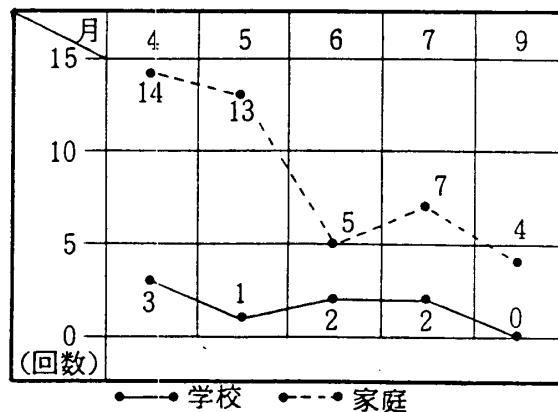
- (1) 医療との連携による発作防止

投薬治療において、薬の種類や量の決め手となるのは、本児の実際生活の様子である。そこで、医師としっかり連絡をとり、学校生活の様子を報告する。→医師より指導を受ける。→家庭に投薬量や方法をきちんと守らせる。ことを基本的な構えとして6月から取り組んだ。具体的には、

- 病院ノート

家庭および学校での発作の様子（大中小）と

図2 本年度の発作の様子



時間をその都度、記録していく。(4月より)

• K子ノート

毎日の学校生活の様子を細かく記録し、授業や間食、学習など家庭生活の様子も記入する。

ノートは、診察時、医師の参考として活用してもらっている。この効果は、表に示すように、6月以降、発作回数の減少として表れているのではないかと考える。

**K子ノート**

9/7 朝からイラついて、着替えも怒ってばっつ。自分で感情をコントロールできない感じ。叱られた音で怒る。納得しきれないのか人をたたいて怒る。だんだん気分を落ち着かせ、笑顔になる。サングラスを自分ではき、指示された所へ行く。他の家のお母さんを見つけ、何事も自分の母親をさがす。

(2) 肥満対策

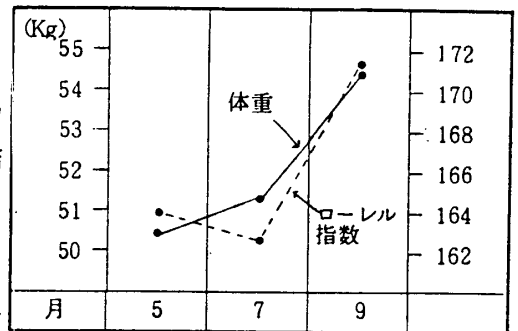
体の発育や薬の副作用のせいかわれど体重が増加傾向にある。体重増加は体に良くない上、動きを鈍くする。結果、ぼんやりとした状態を作りやすく、生き生きとした行動ができない。対策として、以下3つをたてた。

- 運動量の確保…体力づくりの時間の他、K子の好きな三輪車や散歩、追いかけてなど運動遊びを多く取り入れる。

- 食事の制限…給食の摂取量を活動にあわせてコントロールする。

- 家庭との連携…量の調節の他、油ものをひかえる。なるべく間食をさせない指導及び帰宅後できるだけ散歩をしたり、遊びに連れ出して、十分体を動かすことを励行する。

右上図からも分かるように夏休み以降、急激に増加している。薬の影響によるところもあるが、家庭での過ごし方も大きな要因であると考えられる。今の所、目に見えた動きの後退は見られないが、これ以上体重が増えないように、家庭ともしっかり連絡をとりながら肥満防止に努めたい。



(3) 楽しい活動をたくさんさせる工夫

① 遊び的労働は、比較的自由的な活動であり、自然の中でのびのびと活動できる面がある。K子にとっても1時間の内、生き生きと楽しんで活動できる場が保障されており、学部テーマである“楽しんで力いっぱい”のK子らしい具体的な姿がたくさん見られた。

<野外炊飯における活動>

- キャベツがこなごなになるくらい水洗いする。
- プラスチックナイフを使って、じゃがいもを人の分まで切る。
- 皮むき器で上手に皮をむく。

<臨海学校における砂遊び>

- 砂をにぎったり、掘ったりする。
- 砂をたたいて手型をたくさんつける。
- 砂山を手で押して、そのはね返りを喜び、何度もくり返す。
- 水際での水と砂の感触を楽しむ。



② プール学習は、できるだけ自由な形で参加させた。

向い合ってだっこされたり、らっこのように背後を支えられて泳ぐ。くるくる回すと喜んだ。水慣れするに従い、手をつないでジャンプしてプール中を移動していった。更には全く手を離してみたが、一人でも危ない気な様子はなく、にこにこしながら揺れに身をまかせていた。時間いっぱい水の中でよく遊んだ。

③ 個別指導では、着席行動によって少しでも落ち着いて取り組む力（集中力・持続力）を身につけさせること及び運動量の確保として三輪車や散歩に努めた。

〈机上学習〉

- トランプの数字を合わせたり、並べたりする。
- ハサミで紙の四隅を切っていく、切れ味（音）を楽しむ。
- 積み木を高く積み上げていく。時にはわざと倒して教師の反応を見て喜んだりする。



〔紙を切るK子〕

〈運動遊び〉



〔積み木をするK子〕

• 外の散歩の途中、草むしりをする。自分の周囲の草はきれいにとる。とっては丸めて喜ぶ。

- 三輪車に乗って校舎中、こいで回る。教師が乗ると後を追いかける。
- 風に向かってダッシュをくり返す。追いかけてこやギャロップの他、教師の歌にあわせて何度もジャンプする。

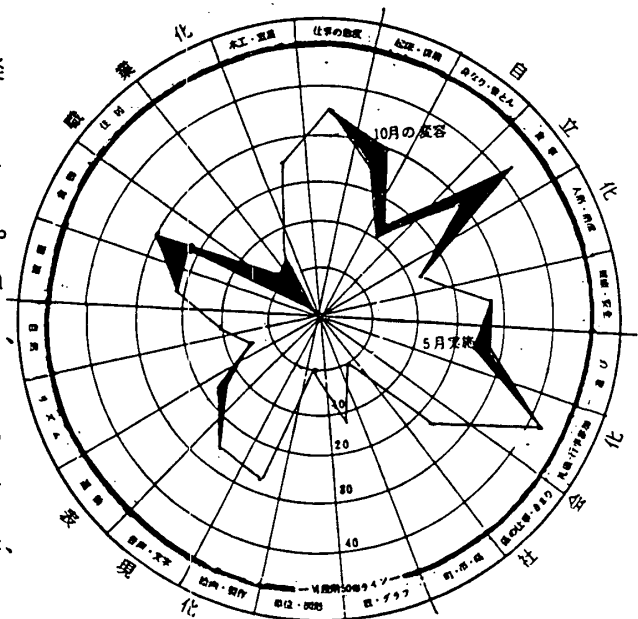
など、K子自ら、楽しんで、また熱中して取り組んだ。

4. 考察

以上の取り組みによって、K子は、少しずつ楽しんで行動する子になってきた。その様子は、運動会のラジオ体操や50m走・踊りなどに表れており、組体操も運動会当日は最高に調子が良かった。

また、生単におけるうどん作りでも生地をこねたり、広げたり、ほう丁で切ったりと実に楽しく、生き生きと取り組んでいる。

まだまだ調子の良い時のことではあるが、右の段階別教育内容のグラフの黒の部分の伸びで示すように、少しずつではあるが、特に、2学期以降、良い方向に向っている。



段階別教育内容表Ⅳ段階の50%への到達度

5. 今後の課題

K子は、障害によってかなり制約を受ける子である。今ひとつ成果の上まらない肥満防止はもちろんのこと、医療との連携や活気ある生活の保障、発作を抑制したり、少しでも楽しい生活を送らせる上で、大変重要であり、今後も考えていかなければならないものである。

K子に対して、集団の中でどの程度まで個別的なものを認めていくか、集団学習と個別学習の兼ね合いが問題となってくる。晴れ間をのがさず、その日その日でK子が、自己実現できるよう担任間、学部間で共通理解を図っていく必要がある。